

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	伊万里市立国見中学校
1 前年度 評価結果の概要	・コロナが5類に以降された後、コロナやインフルの影響を受けながらも学校行事や教育活動を工夫して実施し、一定の教育成果を上げることができた。 ・学校運営協議会を中心に、両小学校や地域との連携を図ることができた。また、PTA活動もほとんどの活動を再開し、通常の学校運営に戻すことができた。 ・『学び合い』を校内研究の柱にし、学校全体で研修と授業実践に努めたことで、授業に主体的に取り組む生徒が増え、学力向上につながる成果が見られるようになってきた。次年度も継続して取り組む。 ・生徒指導部会、校内支援委員会、教育相談部会、SC、SSW等との連携を図り、組織的な生徒指導や支援体制を強化することができた。
2 学校教育目標	自ら気づき、考え、判断し、主体的に行動する生徒が育つ学校
3 本年度の重点目標	(1) 分かる授業の構築と確かな学力の向上 (2) 豊かな心と健やかな体づくり (3) 家庭・地域、小学校との連携

重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○「学び合い」の考え方を取り入れた授業の実践 ・課題に対して全員が達成する授業づくりなどの教科においても目指す。 ○教科ごとに単元計画表を作成し、生徒が見通しをもって学習に取り組む環境をつくる。 ・「くみくみタイム」を活用し、基礎学力の定着、向上を図る。	○意識調査において、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」生徒の割合全校生徒の80% ○家庭学習に取り組む生徒を70%以上 ○教科ごとに単元計画表を作成し、生徒が見通しをもって学習に取り組む環境をつくる。 ・「くみくみタイム」を活用し、基礎学力の定着、向上を図る。	・「学び合い」の考え方について研修を行い、各教科の授業において実践する。 ・あわせて「せまるための効果的な課題の単元計画表」を作成し、各教科が課題の「学び合い」の方法と教科ごとに設定する。 ・探究授業を実施する。 ・単元計画表を教科ごとに作成し、主体的な家庭学習につなげる。	A	・全校生徒を対象に「学び合い」の考え方や何のために学ぶのかを話そうとすることができた。 ・今年度、赴任された先生方を対象に「学び合い」の授業実践、講演会を実施した。 ・「学び合い」の考え方を、各教科が課題の先生に本校にて伝え、指導助言をしてもらった。 ・1学期「探究ワーク」を実施し、先生方同士で、授業を比較する機会を設けた。 ・「学び合い」についてと家庭学習についてのアンケートを実施した。	A	・「昨年度と比べて生徒自身が「学び合い」の考え方を理解するようになり、授業中の動きに変化が見られてきた。生徒が達成することにより、初め「学び合い」に取り組む職員も、スムーズに取り組むことができた。 ・「学び合い」を達成するために、自由学習や学習などに取り組む教科もあり、各教科の取組を職員全体で共有することができた。 ・1学期「探究ワーク」を実施し、先生方同士で、授業を比較する機会を設けたことと他教科、他学年の取組を確認することができた。	A	・「学び合い」の考え方が生徒や職員に浸透してきている。 ・授業に積極的に参加することができたに答えた生徒は95%、「学び合い」の授業に主体的に取り組むことのできたと答えた生徒は80%であり、「学び合い」の結果がうかがえている。 ・「学び合い」の実践が、実際にどの程度学力を定着させているのか検証していく必要がある。	研究主任	
	●心の教育	●生徒が、自分の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理性や正義感、感謝する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○全校学級において、道徳の授業を年1回以上保護者に公開 ・ふれあい道徳で授業を公開する。 ・前の会で伊予里っすこを活用する。 ・性教育講座、薬物乱用防止教室、防衛教室を実施する。 ・「人権作文」に関する取り組みを全校で行う。	・心の教育3点セットを活用した授業を実施する。 ・ふれあい道徳と教育講座を併せて実施したことにより参観者を増やすことができた。 ・外部講師による性教育講座、薬物乱用防止教室、防衛教室を実施した。 ・「人権作文」に関する取り組みを全校で行った。1月に人権学習を実施する予定である。	B	・心の教育3点セットはあまり活用できなかった。 ・ふれあい道徳と教育講座を併せて実施したことにより参観者を増やすことができた。 ・外部講師による性教育講座、薬物乱用防止教室、防衛教室を実施した。 ・「人権作文」に関する取り組みを全校で行った。1月に人権学習を実施する予定である。	A	・「心の教育」の取組が、実際にどの程度学力を定着させているのか検証していく必要がある。 ・「心の教育」の取組が、実際にどの程度学力を定着させているのか検証していく必要がある。	A	・「心の教育」の取組が、実際にどの程度学力を定着させているのか検証していく必要がある。 ・「心の教育」の取組が、実際にどの程度学力を定着させているのか検証していく必要がある。	道徳教育担当 人権・倫理教育担当 性教育等担当
		●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ等の問題が発生した際は、生徒指導主事を中心に、早期解決に向け全職員で組織的に対応 ○「生徒にとって安全で安心な学校づくり」が行われていると感じる生徒80%以上	・生徒指導部会を毎週1回開催し、取組と事業の進捗を確認する。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に1回以上行う。 ・情報教育を充実させ、情報モラル教室を年間に1回以上実施する。	B	・生徒指導部会を毎週1回開催し、各学年の現状把握、事業の進捗を確認する。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に1回以上行った。	A	・生徒指導部会が毎週行うことができた。他学年との問題行動の発生率の確認共有ができていたことがあった。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に1回以上行った。 ・情報教育を実施した。	A	・先生はいじめや問題行動に適切に対応できていたと答えた生徒は94%であり、先生は厳しく指導していたと答えた生徒は98%であり、生徒にとって安全で安心な学校づくりが行われていると感じる。	生徒指導主事
		●生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●先生はあなただよいところを認めてくれていると答える生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」という肯定的回答をした生徒75%以上	・進める、ほめる活動を全職員で行う。 ・生徒の「夢」や「目標」をひかりが丘が主役となるために、助け合いの輪を広げたいと、各委員会で活動の活性化や受容教育を推進する。 ・「将来の夢や目標を持っている」という肯定的回答をした生徒75%以上	A	・進める、ほめる活動を全職員で行う。 ・生徒の「夢」や「目標」をひかりが丘が主役となるために、助け合いの輪を広げたいと、各委員会で活動の活性化や受容教育を推進する。 ・「将来の夢や目標を持っている」という肯定的回答をした生徒75%以上	A	・生徒指導部会が毎週行うことができた。他学年との問題行動の発生率の確認共有ができていたことがあった。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に1回以上行った。 ・情報教育を実施した。	A	・先生はあなただよいところを認めてくれていると答える生徒は94%であり、先生は厳しく指導していたと答えた生徒は98%であり、生徒にとって安全で安心な学校づくりが行われていると感じる。	生徒指導主事
●健康・体づくり		○自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	○自分の夢や目標に向かって努力していると回答する生徒80%以上	・総合的な学習の時間（ENAGEED）を計画的に学習に取り入れた教育課程を編成する。 ・「夢」に関する取り組みを推進する。	B	・「ENAGEED」を活用した研究授業を実施するなど、計画的に実施することができた。 ・「夢」に関する取り組みを推進する。	A	・「3年生を見通した」ENAGEEDの活用も予定通り実施することができた。 ・「夢」に関する取り組みを推進する。	A	・総合的な学習の時間を通して、将来役に立つ資質や能力を身に付けることができた生徒は84%であり、総合的な学習の時間における教育活動の成果が表れている。	総合的な学習の時間担当 各学年主任
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ●安全に関する資質・能力の育成	●健康に良い食事をとっていると考えられる生徒90%以上 ●生徒の交通事故ゼロ（ゼロ）にする。	・朝食の準備に関する授業を学年ごとに家庭科で実施する。 ・食育講演会を年間に1回以上実施する。 ・交通安全教室を年間1回以上実施する。 ・通学路の点検と危険箇所把握の把握に努め、生徒への指導助言を徹底する。	B	・朝食の準備に関する家庭科の授業を学年ごとに実施した。 ・食育講演会についてはまだ実施できていない。 ・交通安全教室を年間1回以上実施した。 ・通学路の点検と危険箇所把握の把握に努め、生徒への指導助言を徹底した。	B	・生活習慣チェックシートを使って、食生活と生活習慣の見直しを行い、日頃の生活の振り返りや改善点を考えさせた。 ・家庭科の食分野では、生命・健康講座、体力向上を目的とした食育講座について学習した。 ・通学路の点検と危険箇所把握の把握に努め、生徒への指導助言を徹底した。	B	・「食育」を通して、食や食べや食生活への感謝の気持ちや食の大切さを考えることができた生徒は87%であり、食事に對する意識が高まっていると感じる。	食育担当 安全指導担当	
	○「部活動」に係るガイドラインを踏まえた部活動の適正指導	○部活動に目標を持ち取り組む、楽しく活動ができていて、安心して取り組める生徒を80%以上を目指す	・部活動単位や学年・学年によるボランティア活動、挨拶指導を実施する。 ・部活動に関するボランティア活動等を定期的に実施し、部活動の実態把握と適正な生徒指導を行う。	A	・部活動の単位や学年・学年によるボランティア活動、挨拶指導を実施した。 ・部活動に関するボランティア活動等を定期的に実施し、部活動の実態把握と適正な生徒指導を行う。	A	・部活動の単位や学年・学年によるボランティア活動、挨拶指導を実施した。 ・部活動に関するボランティア活動等を定期的に実施し、部活動の実態把握と適正な生徒指導を行う。	A	・部活動や社会体育を通して、将来役に立つ資質や能力を身に付けることができた生徒は84%であり、部活動や社会体育を通して、将来役に立つ資質や能力を身に付けることができた生徒は84		

●・・・共通項目 ○・・・学校独自 ◎・・・意を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・充実した学校生活を送ることができた生徒（96%）、人へいじめることなく思いやりをもって学校生活を送ることができた生徒（97%）を大幅に増やすことができた。 ・『学び合い』を校内研究の柱にし、学校全体で研修と授業実践に努めたことで、授業に主体的に取り組む生徒が増え、学力向上につながる成果が見られるようになってきた。次年度も改善を図りながら継続して取り組む。 ・組織的な生徒指導や生徒支援体制を構築し、生徒指導部会、校内支援委員会、教育相談部会、SC、SSW等と連携を図りながら、生徒指導や生徒支援に努めることができた。 ・国見中学校区学校運営協議会で、めざす子ども像を設定し、両小学校、両PTAや育友会、両地域との連携協働体制を構築することができた。次年度は具体的な協働活動に取り組む。
----------------	---